

## 【美祿市】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現をめざす学びの姿

「令和の日本型学校教育」の構築に向け、令和3年1月26日付で中央教育審議会から「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」が答申された。この中で、ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により、「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念である「個別最適な学び」と、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた、「協働的な学び」とを一体的に充実することが示された。

このことを踏まえつつ、本市では、令和2年度に整備した1人1台端末と通信ネットワーク等のICT環境を効果的に活用して、Society5.0という新たな時代を担う人材の教育や特別な支援を必要とする多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、一人ひとりに応じた個別最適化学習にふさわしいICT環境の実現に向けた取組を進めます。また、国のGIGAスクール構想に基づきICT環境などの整備・更新を行い、全学年の児童生徒一人ひとりがそれぞれ端末を持ち、十分に活用できる環境の維持を目指します。

本市では、ICT活用等による教育力の向上を下記3つの取組で実施します。

- 1 学習環境におけるICT活用による学び
- 2 ICT活用による空間的制約を超えた学び
- 3 安心・安全で1人1台端末を活用した学び

##### (1) 学習環境におけるICT活用による学び

2022年の後半から生成AIが急速に注目を集めるようになり、その使いやすさや生成される文章等の精度は日々向上している。そのような中で、全ての児童生徒に求められる資質能力の育成を図るために、一人ひとりに合った学びを一層充実させる必要があり、これまでの教育実践に加えて、生成AI等の先端技術を活用することも有効である。本市では、小・中学校に学習支援ソフト・AI型教材の「Qubena(キュービナ)」を導入しており、基礎的・基本的な学力の定着に加えて、問題解決の方法や考え方の習得等の効果を期待し

ている。こうした取組を進めることにより、デジタル技術や教育データを活用することで実現可能となる個別最適な学びの充実をめざしていく。

## (2) ICT活用による空間的制約を超えた学び

高速大容量の通信ネットワーク（10G帯域ネットワークサービス）を整備したことにより、通信環境の改善が見込まれ、児童生徒がクラウドサービスを活用しながら他者と意見交換や共同編集を行うなど、協働的に学習を進める場面が増えると考えられる。クラウドサービスを活用し、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現といった学習過程をストレスなく実施し、より探究的な学びを充実していきたい。また、ネットワークを通じて海外・県内外・市内の他校と接続するなど、新たな学びの機会を創出することも可能であり、不登校児童生徒のタブレットを活用した自宅からの学習環境の支援など、空間的制約を超えた多様な学び環境の充実をめざしていく。

## (3) 安心・安全で1人1台端末を活用した学び

誰一人取り残されることのない教育の実現に向け、ICTを活用した安心・安全で一人ひとりを大切にしたい学びを実現する。情報セキュリティポリシーに基づいた安心・安全の環境で、1人1台端末の環境を整え、健康観察アプリを用いた児童生徒の小さなSOSを発見や、早期支援につなげる取組を行う。いじめや不登校等、悩みを抱える児童生徒などに対しては、1人1台端末を活用した教育相談を実施することで、安心・安全な学習環境での学びの保障の充実をめざしていく。

## 2 GIGA 第1期の総括

本市では、令和2年度及び令和3年度に市立小・中学校1,427台（Windows）の端末整備を行うとともに、大容量の通信ネットワークを整備するなど、ICT環境の充実に取り組んできた。

こうした環境を各教科の授業や総合的な学習の時間等で活用することで、育てた植物の画像の共有や成長過程を振り返るのに役立っており、児童生徒の情報活用能力の育成を図っている。

また、教職員のICT活用指導力の向上のための取組も進めており、クラウドサービスの基本的な操作方法に関するMicrosoft Teamsを用いた意見交換会や研修を行い、1人1台端末やネットワーク環境、デジタル教材等に関する情報を共有するオンラインコミュニティの運営の他、教職員のニーズやICTスキルに応じたICT活用を実施している。

これらの取組の成果として、令和6年度「全国学力・学習状況調査」の学校質問紙調査によると、小・中学校における授業でのタブレット端末等のICT機器の使用頻度については、「ほぼ毎日」、「週3回以上」利用していると回答した学校の割合が小学校で59.4%、中学校で72.4%となった。また、児童・生徒質問紙調査によると、学習の中でコンピュータやタブレット端末を活用することで「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかる」や「友だちと考えを共有したり比べたりしやすくなる」について、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した児童生徒の割合が小学校で約85%、中学校で約84%となるなど、小・中学校ともに8割を超える結果となり、児童生徒自身も学習活動でICTを活用する効果を実感していることがわかった。

また、本市では、児童生徒一人ひとりに配備されたタブレット端末を毎日家庭へ持ち帰らせており、家庭学習の充実に向けた取組や、日常的な端末活用に向けた取組を一層充実させることに貢献できていると考える。児童生徒自身が普段からICTを文房具として自由な発想で活用できるようにするためには、ICT環境の整備や、授業をデザインする教員のICT活用指導力の向上に加え、児童生徒一人ひとりの情報活用能力を一層育てていくことが求められる。特に、子どもたちが積極的にICTを活用していくことを前提とした情報モラル教育を推進していく必要がある。

### 3 1人1台端末の利活用方策

山口県では、「やまぐちスマートスクール構想」のもとでICT環境を整備し、GIGA第1期における成果を上げてきている。今後は、本市においても、社会全体のDXが加速することを踏まえて、教育データやクラウド環境の活用による児童生徒一人ひとりにあった学びの支援や校務のデジタル化を促進し、美祢市の学校教育のデジタル化を次のステージに押し上げていきたい。

そのためにも、端末の整備・更新を確実にを行い、児童生徒の1人1台端末の環境を引き続き維持していくことが重要であり、1人1台端末の利活用を前提とした本市がめざす3つの学びの姿を具現化するために以下の方策を推進していく。

#### (1) 学習環境におけるICT活用による学びの推進

ICT化の進んだ現在では、学習環境は学校に限られず、日常生活の中で、自分で調べ、考えを発信し、他の児童生徒同士で交流し、自分の特性や理解度進捗に合わせた課題に取り組む時代に入っていると考える。これは、GIGA第1期において、1人1台端末が定着化し、さらに利活用の多様化が広がっている状態にあると考える。

一方で、交流関係が市外・県外へと広がることで、交流に伴うトラブルやセキュリティ面の問題が増加すると予想されるため、児童生徒の情報モラルの育成に向けて、県教育委員会が作成した教材「GIGA ワークブックやまぐち」の活用促進を図りながら計画的な指導の充実をめざす。

具体的には、以下のような取組を展開する。

- ・小・中学校や特別支援学校における1人1台端末の活用事例の共有。
- ・活用型情報モラル教材「GIGA ワークブックやまぐち」の活用推進。

## (2) ICT活用による空間的制約を超えた学びの推進

ネットワークを通じて、海外との交流や他校、地域等とのつながりの中で、協働的な学びを一体的に充実させていきたい。その学習の過程では、1人1台端末を活用して「児童生徒が自分で調べる場面」や「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」、「教職員と児童生徒がやりとりする場面」、「児童生徒同士がやりとりする場面」等、探究的な学習の充実をめざす。また、不登校児童生徒に対する1人1台端末を活用した授業配信による学習支援やスクールカウンセラー等による相談、カウンセリングをオンラインで行うなど、ICT機器を効果的に活用した支援を行う。

また、文部科学省リーディングDXスクールによる先進的取組や各学校の好事例の共有を図っていきたい。

具体的には、以下のような取組を展開する。

- ・地域や学校ごとの端末利活用状況の差をなくし、全ての子どもたちの学びのDXの実現をめざすための教職員研修の実施。
- ・山口県教育ICT推進協議会の活用により、県域での共通クラウドサービスの利活用を推進し、好事例共有の実施。
- ・不登校や障害のある児童生徒等へのオンラインを活用した指導の充実。

## (3) 安心・安全で1人1台端末を活用した学びの推進

美祢市教育振興基本計画では、少人数学級が多い特色を生かし、家庭との連携を密にする「心つなぐ1・2・3運動（不登校早期対応システム）」を実施し、不登校児童・生徒への初期対応の推進を行っています。児童生徒の学び方が多様化する中で、情報セキュリティ等の安心安全を確保し、デジタル教材による不登校児童・生徒、障害のある児童生徒の教育環境を改善し、今後も1人1台端末の効果的な活用方法を検討する。

また、個々の発達の段階に応じて、デジタル教材だけでなく、実際に学校に足を運ぶ支援として、ステップアップルーム（学校内保健室や別室を活用した相談室）等の支援環境のさらなる環境整備をするなど、本市の少人数学級の特徴を生かしたきめ細かな支援を実施していきたい。

具体的には、以下のような取組を展開する。

- ・ 不登校や障害のある児童生徒等へのステップアップルームを活用した学習支援の充実。
- ・ 児童生徒の発達の段階に応じた I C T の利活用方法についての研修の実施。
- ・ 安心安全を確保するための情報セキュリティポリシーの更新。